

ペルー 2025年の生食用ブドウ輸出で世界市場を席卷

[FreshFruitPortal](#) 2025年10月28日

2025年のペルーの生食用ブドウ輸出額が19億ドルに達し、世界市場を席卷

ペルー農業開発灌漑省(MIDAGRI)によると、本年末までに同国の生食用ブドウ輸出額は19億ドルを超え、同国は世界最大の生食用ブドウの生産・輸出国となる見込みである。

同省は、2025年の輸出量を76万トンと予測しており、12月までの平均価格は3.27ドル/kgと見込んでいる。この推計は、シーズン初期の出荷実績に基づいている。

業界データによると、ペルーの生食用ブドウ生産量は、2015年の59万7,900トンから2025年暫定見込みの109万トンへと増加しており、累積成長率は82.5%に達している。

これらの数値は、品種の多様性、品質、及び物流・商業的要求への適応力に牽引されたペルーの国際市場における地位の確立を示している。これらの取り組みは、ペルーが各国及び貿易圏と締結した自由貿易協定によって補完されている。

ペルー産生食用ブドウの優位性

ペルーには、スイートグローブ、クリムゾンシードレス、アッラ15等、40以上の生食用ブドウ品種が存在し、米国、中国、メキシコ、英国、韓国、欧州連合等の主要市場で広く受け入れられている。

季節性に加え、ペルー産ブドウのかかなりの部分、すなわち同国の供給量の75%が種なし品種であることで際立った優位性を享受している。ペルーは、チリ、南アフリカ、米国、中国等、先進的な生産体制を持つ主要競合国との激しい競争に直面しているため、このことは特に重要である。

同国は、新たな品種の嗜好への迅速な対応と、季節的な需要の重要な時期における高品質な果実の提供により、その競争優位性を確立してきた。

ペルー産生食用ブドウの輸出市場

MIDAGRIによると、生食用ブドウの主な輸出先は引き続き米国で、シェアは35%を占める。次いでオランダが15%、第3位のメキシコが10%で続いている。中国もそれに近い8%の市場シェアを有し、英国(6%)とカナダ(5%)がそれに続く。

今後、ペルーが持続的な成長を遂げ、東南アジア及び中東諸国への市場アクセスを獲得するにつれ、この順位は変動する可能性がある。

業界は、チャンカイ港の開港に伴う物流の改善を高く評価している。同港はアジアへの直行ルートと、より大きな船舶による果実輸送の可能性を提供し、それにより輸送効率と物流の流動性が向上し、中国、台湾、日本、韓国への輸送時間と運賃の削減が実現する。